

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	唐津市立厳木中学校
1 前年度 評価結果の概要	・各担当で工夫した取組ができているが、項目によっては昨年度を下回っているものも見られる。今年度の振り返りを通して次年度の改善策を全職員で創意工夫して実践していきたい。 ・コロナ感染症の5類への引き下げにとまない、地域と連携した取組を行うことができていた。今後も地域に開かれた学校づくりを推進するため、地域連携に力を入れた取組を行ってきたい。
2 学校教育目標	夢にむかって 学び続けようとする 子どもの育成～地域とともに 未来を拓く 厳木小中学校～
3 本年度の重点目標	・学力向上～小中併設校として9か年の学習内容や教育課程、発達段階に応じた魅力ある授業を展開し、学習意欲を高める。 ・社会性の育成～生徒一人ひとりが活躍できる場面や役割を設け、承認する場面を増やし、自己肯定感を高める。 ・特別支援教育の充実～支援の必要な生徒に対して、合理的配慮に基づいて個別支援の実施する。

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○校内研究及び校内研修の充実 ○家庭学習を充実させるための取組	○学力向上対策評価シートに示した共通実践及び成果指標を達成した教師70%以上 ○家庭学習の時間について、1日あたりの各学年の目標時間を達成した生徒が70%以上 1学年:1時間30分 2学年:2時間 3学年:2時間30分	・各教科とも、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学力向上を目指した授業計画を作成し授業を実施する。また、全職員が年1回の研究授業を行うことで、授業の改善を図る。 ・Qフレズと自学ノートの取組の推進。 ・生徒会による家庭学習を充実させるための取組。 (家庭学習に関する調査や集計発表、テスト予想問題の作成と実施など)	A	・各教科とも、各単元における「課題解決に必要な力」の明確化と学力向上を目指した授業計画を作成し授業を実施し、授業改善に努めた。 ・生徒会と連携し、Qフレズと自学ノートの取組を進めた。また、生徒会を中心に、家庭学習に関する調査の実施と集計の発表、テスト予想問題の作成と計画的に取り組むことができた。 ・家庭学習は、全体の約7割が1時間30分以上学習していると答えたが、目標時間の達成率は1年約71%、2年約29%、3年約28%であり、2年生と3年生の学習時間が増えるような取組が今後も必要である。	A	・学力向上を目指して、全職員が研究授業に取組を今後も充実させてもらいたい。家庭学習の時間については、学年間で達成率の差が大きい。実施に応じて時間や内容を工夫してもらいたい。	・研究主任 ・研究副主任
	○生徒の学習状況や課題の把握 ○「知識・技能」の定着を目指した取組 ○「思考・判断・表現」の向上を目指した取組	○本年度は12月に過去の県調査問題を実施することで取組の成果を計る。 成果指標 ・各教科のQテストの合格率が50%以上 ・学期末テストや実力テストにおいて、「知識・技能」、「思考・判断・表現」ともに到達基準を越える生徒が60%以上 ※到達基準は県学習状況調査の問題等を基に各教師で設定。	・学習状況調査やNRTなどの分析による生徒の学習状況の把握。 ・各教科における単元テストの実施。 ・QタイムとQテストの実施。 ・「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業の実施。	・各教科とも単元テストを実施することができた。 ・QタイムとQテストの取組を計画的に実施し、基礎学力の定着に努めた。 ・各教科とも「思考・判断・表現」を必要とするような学習課題を設定した授業実践に努めた。 ・基礎・基本を中心として各教科で数回実施したQテストの合格率は、ほとんどが50%以上の結果だった。しかし、学期末テストや実力テストでは、「知識・技能」は各教科とも到達基準を超えていたが、「思考・判断・表現」は、ほとんど教科で到達基準を超えていなかった。今後とも向上を目指した取組が必要である。	A	・「思考・判断・表現」について到達基準が達成できるように授業改善に努力してほしい。	A	・「思考・判断・表現」について到達基準が達成できるように授業改善に努力してほしい。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおける肯定的な回答をした生徒80%以上	・道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業力向上のための資料提供 ・保護者への保護者と連携したふれあい道徳の実施 ・学級通信等による道徳科の授業の紹介	A	・1月下旬に実施した道徳に関するアンケートでは、「道徳科の授業では、友だちと意見交換をしながら、自分のことについて考えることができる。」質問に対して、肯定的な回答をした生徒は、1年100%、2年61%、3年100%、全校84%であった。 ・生徒たちの思いや考えを保護者に知らせるために、授業後の感想等を定期的に学級通信に掲載して配布した。	A	・道徳の授業について、学級通信を通して知らせることは大変いいことである。今後もその取り組みを続けてほしい。	・道徳主任 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員に相談しやすいと感じる生徒率80%以上 ○学校が楽しいと感じる生徒率80%以上。	・毎月、「いじめ・生活アンケート」を実施 ・6月と11月に担任との教育相談週間を実施 ・全職員における生徒指導の体制作り	B	・悩み事があるとき、職員に相談しやすいと感じた生徒は全体で68%であった。 ・全体的に低い数値となった。各学年だけに任せるのではなく、全職員で気にかけていくことを再度確認する。 ・学校が楽しいと感じた生徒は全体で98%であった。この結果に安心するのでなく継続して、アンテナを高くしてやっていく必要がある。	B	・学年によって、職員に相談しやすいと答えた生徒の差があるのは、子どもたちの性格もあるのだから、なぜ相談しにくいのかについても原因を探ってほしい。いろいろな悩みを抱える生徒も増えてきているので、生徒に寄り添った指導を今後行ってもらいたい。	・生徒指導主事 ・教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのようにと認めてくれている」と回答した生徒70%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・あらゆる学校生活の場において、生徒の様子を観察し、よいところを認める機会を多くもつ。 ・総合的な学習を中心に、全ての教科やふるさと探訪や職場体験、地元企業訪問等の郷土学習を通して郷土を愛し将来の目標に向かって自ら考える時間を確保する。	・厳中アンケートより、「先生はあなたのよいところを認めてくれている」という肯定的な回答をした生徒は30%で変わらなかったが、「その思いや」と回答した生徒が6%とわずかに増加している。生徒たちの活動により進歩し、普救められていない生徒を改めていよにする必要があると思われる。 ・「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした生徒は3%。夢がこれに自覚的な生徒はあまりおらず、今を頑張った先に見つかると考えている生徒も多い。	A	・各学年の郷土学習を通して、将来について深く考えさせる活動を今後も取り組んで行ってほしい。 ・ほめて伸ばす指導を今後もよろしくお願ひします。	A	・各学年の郷土学習を通して、将来について深く考えさせる活動を今後も取り組んで行ってほしい。 ・ほめて伸ばす指導を今後もよろしくお願ひします。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○朝食摂取率95% ○「健康に良い食事をしている」生徒90%以上	・生活状況調査の実施 ・食に関する意識調査の実施	A	・「朝食を食べてきている」生徒は30%、「十分な食事をとれている」生徒は96%であった。 ・朝食摂取に関しては、健康相談や教育相談の機会に担当職員から生徒へ指導を行い、食事のバランスを意識することができるようになってきた。しかし、給食の残菜減まででは、野菜が多く残る学年があるため、栄養指導を引き続き行う必要がある。	A	・朝食については、家庭の問題ではあるが、食育教育を生徒・保護者に対して充実したものにしていただきたい。	・保健主事 ・食育担当
	○健康意識の向上と体づくり	○体力・筋力が向上したと考える生徒が90%以上	・新体力テストの実施 ・体育の授業前に補強運動(筋力トレーニング)を実施	A	・体力の向上を感じている生徒は3年生100%、2年生71%、1年生100%、全体で89%であった。 ・学年によっては、運動の好き嫌いで二極化が見られるので、嫌いな生徒でも積極的に動けるように、さらなる工夫が必要である。	A	・運動嫌いな生徒にも、楽しめるような工夫を今後よろしくお願ひしたい。	・保健主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	○教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できた教職員80%以上。	・週2日以上での部活動休業日の実施。 ・水曜日の定時退勤実施の推奨 ・年休取得を促進するため、パースデー一年休の取得推奨並びに長期休業中に会議の設定を工夫する。	B	・4月～1月までの時間外在校等時間の上限を遵守できた教職員の割合は81%、平均32時間であった。 ・家庭の事情により、水曜日の定時退勤日の実行できない教職員に対しては、常理日に実施している。 ・パースデー一年休の取組については不十分であった。	B	・今後も働き方改革をさらに進め、生徒と向き合う時間の確保に努めてほしい。	・管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目								主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○特別支援に関する専門性が向上した教員80パーセント以上	・特別支援に関する研修会 ・個別の支援計画・個別の指導計画の記入についての研修会	A	・職員研修を実施した結果、「生徒理解が進んだ。」「その後の指導に生かすことができた。」について、肯定的な回答をした職員は共に96%であった。 ・個別の支援計画については、個別の生徒に対応することができた。	A	・各クラスにいる支援の必要な生徒にも研修を生かして、今後とも対応していただきたい。	
○生徒会活動の活性化	○生徒に学校行事や生徒会活動の中で活躍の場を持たせ承認する場面を増やし、主体性を高める。	○「専門部の仕事を自覚し、責任をもって取り組むことができる」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・生徒集会 生徒総会 新入生対面式等 ・行事や専門部の活動の中で活躍する場をたくさん設け、振り返りをさせて次につなげる。	A	・「専門部の仕事を自覚し、責任をもって取り組むことができる」について肯定的な回答をした生徒は、98%となった。今後とも、活動と振り返りの場を設け、自治的な意識を高めていきたい。	A	・責任をもって係活動や当番活動に取り組める生徒が多いことはとても嬉しいです。今後も一人ひとりが活躍する場の設定をお願いしたい。	・生徒会担当
○地域連携	○いきいきからつ子育て事業を活用したキャリア教育の実施。	○地域での教育活動に対する生徒満足度を80%以上	・各学年で地域での教育活動を設定する。 1年ふるさと探訪 2年職場体験 3年ふるさと企業訪問	A	・各学年での取り組みに関する満足度は、各学年100%と生徒にとって充実した取組を行うことができた。	A	・市の補助金で、生徒が満足する地域を活用したキャリア教育を継続してほしい。	・管理職
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								主な担当者
5 総合評価・次年度への展望	・充実した取組が行われているが、今後もさらに工夫して全職員で子どもに寄り添った指導を実施していきたい。特に、学習面については、授業への意欲がある生徒が多いが、基礎・基本の定着や思考力・判断力・表現力については、十分とはいえない。 ・今年度より小学校と併設したことを機会に、小中で継続した学習指導や家庭学習を行い、更なる学力向上につなげていきたい。また、生活面でも小学校と連携した取組を充実させ、子どもたちの自己肯定感を高める手立てを工夫して行きたい。							